

◆ 世田谷都税事務所長賞 ◆

「こんな僕でもできること」

東京農業大学第一高等学校中部部 3年 松島 捷人

僕の学校では、毎年文化祭で生徒会企画という、生徒会の生徒が1ブースを使い、企画をするというものがあります。去年と今年の文化祭ではレモネードスタンドという、小児がんの子供たちへ売上金額を全額寄付するという企画をしています。僕は昨年から生徒会に所属しており、去年は先輩の手伝いをしました。先輩は小児がんの子供たちへのために一生懸命準備をしており、僕にはとてもかっこよく思えました。先輩の努力のおかげで寄付額がなんと、約19万8千円となりました。先輩の背中を追いかけるよう、今年は僕が主導となり企画しています。

僕はこの企画をしていく中で疑問に思ったことがあります。それは、世の中には小児がんの子供たち以外にも難病を患っているたくさんの子供たちがいるが、その子たちにもお金は寄付できているのか。そこで調べてみることにしました。すると小児慢性特定疾病の医療費助成についてを見つけました。小児慢性特定疾病の医療費助成とは、小児慢性特定疾病にかかっている子供たちに、患児家庭の医療費の負担軽減や、その医療費の自己負担分の一部を助成する制度です。この制度があるおかげでたくさんの子供たちが助けられたことと思います。

小児慢性特定疾病の医療費助成は僕たちが日ごろ物を買う時などに払っている消費税や所得税のお金から賄われています。実は僕は人を助けるということが苦手です。自分から声はかけづらいし、誰かのために何かをしようと行動することも苦手です。しかしそんな僕でも誰かのためになっていると思うとうれしいです。

生徒会企画を通じて、世の中には自分が思っている以上にたくさんの大きな病気を持った子供たちがいて直接では助けることはできないけれどレモネードスタンドを実施して寄付したり、税金をはらったりすることによって間接的に助けることができることがわかりました。これからも助けられる方法を探して、難病を持った子供たちを助けたいです。